

情報連絡員だより

—令和2年10月の報告より—

全体の天気図が8ヵ月ぶりに
「小雨」に回復

業種 / 景況天気図		概況
全	体	新型コロナウイルス感染拡大により需要が減少し、3月より天気図は「雨」が続いていたが、「小雨」に転じている。中でも、食料品やサービス業においてはGo To トラベルの好影響があり、業況回復に一定の効果が表れている。ただ、多くの業種ではコロナ禍以前の水準には至らず、厳しい状況であることに変わりない。
製 造 業	食料品	パンは、Go To トラベルなどの需要喚起策により売上が前年並みに回復。菓子は、2度あったお月見で需要も高まり、前年並みに戻りつつある。食肉は、肉食需要が引き続き安定。製麺は、一般家庭向けの荷動きは例年並みに戻るも、業務用は8割程度にとどまる。酒造も、旅館・飲食店向けの売上が大幅に減少し、在庫増。
	繊維・同製品	桐生織物は、リモート商談も用いて来年の秋冬用展示会を開催、好評のうちに終了。刺繍も展示会の開催が増えてきているが、なかなか受注に結びつかない。伊勢崎織物は、先は見通せないものの、底堅さが継続。繊維製品は、医療用ガウンの生産量が11月以降大幅に減少するなど、さらなる業況の悪化や廃業を懸念。
	窯業・土石製品	コンクリートブロックは、仕事量はあるが着工に向けた打ち合わせができず、工事が先延ばしになっている物件が多数ある状況。生コンは、前年の台風被災関連工事で吾妻西部が堅調。砕石は、吾妻・西毛地域の災害復旧工事などにより、全体の売上増加。砂利は、出荷見合の生産となっており、在庫はほとんどない様子。
	機械・金属	受注が徐々に回復し、11月にはコロナ禍以前の状態に戻るとの予測も聞かれる。こうした中、半導体は、テレワーク関連や家庭用ゲーム機向け需要が高水準を維持しており、今後の生産増を期待。自動車関連は、SUBARU関連が前年と同等程度まで回復したが、依然として二次・三次下請は売上確保と雇用維持に苦慮。
	その他の製造業	木材は、原木価格の高騰と製品単価の低迷により、大変厳しい状況。紙加工品は、観光地需要や冠婚葬祭関連が持ち直すなど、取引先の状況が改善しつつある。印刷は、8、9月を底として、少しずつ回復傾向となっている。ゴム製品は、自動車関連等の受注減が急速に回復し、一部では人手不足が発生。
非 製 造 業	卸売業	新型コロナ感染拡大を受けたイベント自粛による需要減少や、設備投資の動きが鈍化していることが関連業者に悪影響を与えており、業況回復は足踏み状態となっている。農産物卸は、旅館関係の需要増加により、売上が前年並みまで持ち直している。
	小売業	生花小売は、例年より流通量が減り販売価格上昇、割高感により一般家庭向け需要が減少。商店街は、イベント中止や規模縮小が続く。燃料小売は、需要は回復傾向だが、販売価格低下に伴い売上減少。家電小売は、例年、年末に向けて需要の伸びるテレビ販売が不振。中古車オークションは、成約単価の上昇傾向が継続。
	サービス業	温泉旅館は、Go To トラベルの対象に東京都発着の旅行が加わった影響もあり売上は回復傾向だが、施設ごとの格差や地域差があり、楽観できない状況が続く。不動産取引は、テレビ放映や駅周辺の整備計画の影響により、吉岡町や元総社町から渋川駅周辺が活気づいている。建築設計は、売上が減少し、業況悪化が続く。
	建設業	解体工事は、年末に向け空き家解体件数が増加。鉄構は、年末までは仕事量が少ないものの、年明け以降の案件が出始めた。電気工事は、高齢化に新型コロナが重なり、廃業を検討する組合員が増加。建設工事は、下請業者確保に苦慮。塗装工事は、公共工事で多くの発注があるが、民間工事は減少しており、苦しい状況。
	運輸業	燃料の販売量はわずかに回復傾向にあるが、依然荷動きは低調に推移。野菜関連は、台風の影響はなかったものの、レタスなど品種によっては輸送量が2割減少、飲料水・日用雑貨の出荷も少ない。一方、1年以上前に受注した大型機械の輸送は好調。小口配送は、新型コロナの影響で相変わらずスポット配送の依頼が減少。